

令和6年度の研究について

長野県学校体育研究会 研究部

(1) 令和6年度研究部グランドデザインの解説

①信州教育とは何か(令和5年4月号「信濃教育」武田会長巻頭言から)

「信州教育とは」とさまざまに言われる。信州教育にはいろいろな側面があり、とらえる人によって千差万別であるが、一つの特徴として、子どもを中心に据え、子どもの内に建設される「問い」を大切にできる教育と言えるのではないかと。大正から昭和初期にかけて長野県師範附属小学校に設置された「研究学級」。その担任である淀川茂重が『途上～研究学級の経過』の中で「児童の教育は、児童にたちかえり児童によって児童のうちに建設されなくてはならない。」と述べている。ここに信州教育の原点があるように思う。「研究学級」創設の発案者であり、当時附属小学校の首席訓導であった斎藤節は「学説からも思想からも影響されるのはもちろんであるけれど、そこから教育は学べはしない。すべては事実からであり、実際からである。」と述べている。学説を参考にしつつも、子どもの学びの事実を重んじ、子どもの実際からスタートしようとする教育。これも信州教育の特徴と言えよう。川田殖は「明治から大正にかけて行われた国策としての画一的教育・官僚的教育に抗して、我が信州の教師たちは個性尊重の教育を重視した。信州の教育者には、数えきれないほどの独立の人格があり、千紫万紅、百花繚乱の趣を呈した。」と述べている。自主独立の精神に基づき、教師一人一人が「正しい」と思うことを革新的に実践しようとする教育。これも特徴の一つである。これらの教育を支えてきたのは、信濃教育会や郡市教育会の研究会などに自主的・主体的に参加し、そこでの活発な議論により成長しようとする教師なのである。

②長野県学校体育研究会の強み

組織がその目標を達成するために大切なことは、その組織がもつ強みを最大限引き出すことであると言われる。本研究会は700余名という多くの会員からなる。これは大きな強みである。また、創立70年という長い研究の歴史があることも大きい。他県では、小学校中心に体育の研究を進めており、中学校の授業が提案されない県もある。小中学校が連携して研究を進めているのも本県の強みである。本県では広く一般的に行われている男女共習の授業だが、いまだに男女別修で授業を行っている県は多い。「インクルーシブ教育」の視点からも、男女共習の授業を今後も展開していきたい。また、本県では、全県が一体となって研究を進めている。それを可能にしているのは、支部から県へとつながる組織である。これは先輩方が長い歴史の中で築き上げたものである。このように本県には、他県にはない優れた特徴があり、これらの強みを引き出し、生かしていく必要がある。

③切り拓くべき今日的な課題

これから我々が進む未来は、予測困難な社会であると言われている。第4次長野県教育振興基本計画には、本県が切り拓いていくべき今日的な課題があげられている。その中から体育に関わるものを拾い上げてみた。「知識やスキルの習得に偏重した教育」「人間関係の固定化」「リアルな体験活動の減少」「新しい価値や時代を創造する資質能力の必要性の高まり」「人とのつながりの希薄化」「経済格差による学びの機会の格差」等である。一つ一つが大きな課題だが、会員の力を集め、実践を通して切り拓いていく必要がある。

④共通理念～研究テーマ～研究の重点

共通理念は、これまでの研究を継承して「生涯にわたって運動に親しみ、健康で豊かなスポーツライフを構築していける人間の育成。」とした。また、この共通理念を具現するための問い(研究テーマ)を「すべての子どもたちが、自ら運動の楽しさを味わい深めていくにはどうしたらよいか」とした。そして本年度の研究の重点を「日々の授業の充実～すべての子どもが夢中になる運動と授業の工夫～」とし、実践を通して研究を深めることにした。

(2) 研究の切り口

研究を推進するにあたり3つの「切り口」を設けた。各支部から選出された研究部員が、このうちの1つを選び3つのグループを構成した。

A：特性再考

使い慣れた「運動の特性」という言葉であるが、「特性」とは何かについて改めて見返し、子どもが生き生きと運動に取り組む授業を目指したいと考えた。

B：ICT活用

一人一台配置されたタブレットの活用が進んでいる。体育の学習でタブレットなどのICT機器を、より有効に活用する方法を考えたい。

C：インクルーシブ

各校には、特別な支援が必要な子、外国籍の子などが在籍している。どの子も共に学びを深めることができる授業を目指したいと考えた。

○研究部員グループ分け（○印はリーダー）

A：特性再考グループ	B：ICT活用グループ	C：インクルーシブグループ
○早野 洋一（下伊那） 佐々木 優（更埴） 清水 克哉（安曇野） 宮下 智康（木曾） 小平 貴彦（諏訪）	○村澤 陽介（上伊那） 両角 竜平（佐久） 大沢 創（上小） 原 勇介（上高井） 青木 孝文（長水） 犬飼 竜馬（塩筑）	○宮崎 健介（松本） 塩川 咲輝（下高井） 浦野 裕之（飯水） 鈴木 海平（長水） 塩原 一矢（北安曇）
世話係 大澤 忠史（副部長）	世話係 宮崎 忠（副部長）	世話係 清水 直人（副部長）

(3) ホームページの開設

本年度は、長野県学校体育研究会創立70周年となります。このことを記念して令和5年度末に本会の公式ホームページを開設しました。下記URLまたはQRコードからページにお入りください。今後、本会の情報を積極的に発信し、各支部間の情報交流等に努めてまいりたいと思います。

メニューの中にある会員専用ページには、パスワードを入力すると入ることができます。これまで印刷物として配布していた「志なの」などの原稿をPDFでご覧いただけます。令和6年度用パスワードを後日、各支部の理事をとおしてメールでお送りします。

<https://nagano-taiiku.asfweb.jp/>

